

インドネシア
「グリーンウォール」の普及と拡大
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月
コンサベーション・インターナショナル



グリーン・ウォール・プログラムにより再生された森

森林再生地のモニタリング

若木は、天候や害虫、人間の経済活動など、様々な影響を受けやすいため、植林後の定期的なモニタリングはとても重要な活動です。私たちは年に1度データ収集を兼ねたモニタリングを行うほか、毎月地域コミュニティや国立公園のレンジャーと協力して、若木の成長をモニタリングしています。

今年は1月にデータ収集のモニタリングを行い、コミュニティメンバー50名と、国立公園スタッフ15名が参加しました。植林した木は97%が順調に育っており、成長が早い木は果実を実らせているものもありました。さらに、熟した果実が地面に落下し、その種から新しい芽が生えている様子も発見しました。

また、今回は各樹木の生長をサンプリングにより測定しました。その結果は以下のとおりです。

木の種類	平均値	
	樹木の直系 (cm)	樹高 (m)
ラサマラ (<i>Altingia excelsa</i>)	15.8	6.6
ヒメツバキ (<i>Schima walicii</i>)	11.7	7.6
ヒメタイサンボク (<i>Manglietia glauca</i>)	12.9	7.1
クスノキ科の一種 (<i>Neolitsea javanica</i>)	11.8	9.05
スリアン (<i>Toona sureni</i>)	20.4	11.6
ジタノキ (<i>Alstonia scholaris</i>)	22.4	8.9
ホルトノキ科の一種 (<i>Elaeocarpus pierrei</i>)	14.2	7.6
フトモモ科の一種 (<i>Eugenia clavimirtus</i>)	13.2	8.3

今回のモニタリングでは、対象地域で農業を行っている人が2008年の665人から、113人まで減少していることが確認できました。プロジェクトが地域コミュニティに代替生計手段（養殖や家畜など）を支援し、教育啓発活動を行ってきたことが、人々の森林資源への依存を軽減させていると考えられます。



森林再生地でのモニタリング活動



母樹の近くに育つ若木

グリーン・ウォール内の動物観測

森林再生によってグリーン・ウォールを築くことは、野生動物たちの生息地を確保することにも繋がります。私たちは2019年7月から2020年6月にかけて、新しく森林再生された地域にどんな野生生物が生息しているか、カメラトラップを用いて観測しました。その結果ジャワヒョウやマレーセンザンコウなど、絶滅危惧種を含む10種類の野生生物の姿がカメラで捉えられました。



ジャワヒョウ
Panthera pardus melas



ベンガルヤマネコ
Prionailurus bengalensis



ジャコウネコ科の一種
Viverricula indica



ジャワマンゲース
Herpestes javanicus



パームシベット
Paradoxurus hermaphroditus



マレーセンザンコウ
Manis javanica



イノシシ
Sus scrofa



マメジカ科の一種
Tragulus javanicus



ジャワヤマアラシ
Hystrix javanicus



カニクイザル
Macaca fascicularis

看板

サイトには、プロジェクトの看板が 5 つ設置されており、毎月看板の状況もチェックしています。前回破損のあった看板は 12 月に修復されましたが（看板①）、今回新たに 1 つ修復が必要な看板が見つかりました（看板⑤）。



看板①



看板②



看板③



看板④



看板⑤

※文中の写真は ©CI Indonesia/ Photo by Anton Ario（カメラトラップの動物を除く）